

---



---

 その他
 

---



---

 順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究14  
 P.16-25 (2026)

 順天堂大学保健看護学部における学生のディプロマ・ポリシー  
 および学士力に関する調査から見えるもの

 What Can Be Seen from the Survey on the Diploma Policy and  
 the University Graduate Power of Students  
 at Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing

 榎本佳子<sup>1)</sup>  
 ENOMOTO Yoshiko

 藤尾祐子<sup>1)</sup>  
 FUJIO Yuko

 高桑優子<sup>1)</sup>  
 TAKAKUWA Yuko

 齊藤麻子<sup>1)</sup>  
 SAITO Asako

 辻川比呂斗<sup>1)</sup>  
 TSUJIKAWA Hiroto

 森加苗愛<sup>1)</sup>  
 MORI Kanae

 酒井太一<sup>1)</sup>  
 SAKAI Taichi

 西岡笑子<sup>1)</sup>  
 NISHIOKA Emiko

 榎子嘉美<sup>1)</sup>  
 KUWAKO Yoshimi

 山崎満隆<sup>1)</sup>  
 YAMAZAKI Mitsutaka

 杉山昌子<sup>1)</sup>  
 SUGIYAMA Masako

 兒玉裕三<sup>1)</sup>  
 KODAMA Yuzo

 小池道明<sup>1)</sup>  
 KOIKE Michiaki

 大熊泰之<sup>1)</sup>  
 OKUMA Yasuyuki

## 要旨

本学部の学生は、ディプロマ・ポリシー（DP）についての認知度が全体的に高く、学年が上がるごとに認知度が高くなることが明らかとなった。また、大学側からの情報発信について、「どちらともいえない」と回答したものが4割と多かったことや、教員から〈到達目標〉と〈コンピテンシー（C）〉との関連について説明を受けているかについて、「常に受けている」と回答したものは1割未満であり、大学側からの情報発信に課題があることが示唆された。今後は、教員側からの各科目における達成すべきコンピテンシー（C）、修了レベルコンピテンシーを意識した授業への取り込み等の課題が見えてきた。また、学部学生に学部学修のイメージを定着させるための情報発信のタイミングについても検討することが課題である。

索引用語：ディプロマ・ポリシー、学士力、学生調査

Key words : Diploma Policy, The university graduate power, Student survey

## 1. はじめに

大学には、学術研究を通じて新たな知を創造するとともに、自らの教育理念に基づく充実した教育活動を展開することにより、生涯学び続け、主体的に考える

力を持ち、未来を切り拓ひらいていく人材を育成することが求められる<sup>1)</sup>。このような大学教育への質的転換を図るため、平成28（2016）年3月に学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）が改正され、全ての大学等において、その教育上の目的を踏まえて、「卒業の認定に関する方針」（以下、「ディプロマ・ポリシー（DP）」とする）、「教育課程の編成及び実施に関する方針」（「カリキュラム・ポリシー（CP）」）及び「入

1) 順天堂大学保健看護学部

 1) *Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing*

(Nov. 11, 2025 原稿受付) (Dec. 5, 2025 原稿受領)

学者の受入れに関する方針」(「アドミッション・ポリシー (AP)」) の3つのポリシーを策定し、公表することが義務づけられた<sup>2)</sup>。

順天堂大学(以下、本学)では3つのポリシー作成の基本方針として、開学(1838年)以来、学是「仁」(人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」と理念「不断前進」(現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢)に則り、「三無主義」(出身校、国籍、性による差別無く優秀な人材を求め、活躍の機会を与える)の学風を掲げ、9学部5研究科6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育・研究・医療そしてリベラルアーツを通じて国際レベルでの社会貢献と人材育成を進めている。本学に学び、卒業時・修了時に、何を身に付けたか、何ができるようになったかという質保証の観点から、3つのポリシーを掲げ、全学の方針を大学全体の視点で策定し、学位プログラム(学部、研究科)単位で詳細を明示している<sup>3)</sup>。

順天堂大学保健看護学部(以下、本学部)では、本学での策定方針を受け、学是である「仁」の精神に基づき、保健医療福祉の一翼を担う優れた看護実践力をもつ心温かで、地域の人々のヘルプロモーションに貢献する国際性豊かな看護職者を養成することを目的と

し、3つのポリシーを掲げている<sup>4)</sup>。また、ディプロマ・ポリシー(DP)に示した学修成果を達成するために必要な能力として、11項目のコンピテンシー(C)と各学年で達成すべきコンピテンシー達成レベル(以下、学年修了レベルコンピテンシー)を設定している。

本報告は、2025年度に在学する学生を対象に本学部におけるディプロマ・ポリシー(DP)とコンピテンシー(C)および修了レベルコンピテンシーといった学士力に関する認識と学部からの情報提供に焦点を当て調査を行った結果を報告する。結果から、学生が自らの学ぶ教育課程の目標や構造を十分に理解したうえで、学修活動に主体的に向き合うための本学部における課題について考察した。

## II. 順天堂大学保健看護学部におけるディプロマ・ポリシー(DP)、コンピテンシー(C)、学年修了レベルコンピテンシー(2025年度履修要項より)<sup>4)</sup>

### 1. ディプロマ・ポリシー(DP)とコンピテンシー(C)

本学部にて4年以上在学し、学是である「仁」の精神を基盤に、「心身を癒す看護実践能力を修得する」という学部の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、次の

ディプロマ・ポリシー (DP)		コンピテンシー (C)	
1	他への思いやり、慈しむ心、高い倫理観を備え、良好な人間関係を築くことができる能力	1	他を思いやり慈しむことができる能力
		2	倫理的課題に対応する能力
		3	人間関係を構築できるコミュニケーション能力
2	保健医療福祉において、科学的根拠に基づき看護を実践し、多職種と連携、協働できる能力	4	医学および看護に関連する諸学問の知識を活用できる能力
		5	科学的根拠に基づき対象に必要な看護を実践する能力
		6	保健医療福祉のケア環境において多職種と連携し協働する能力
3	情報化・グローバル化する社会で看護職者としての役割を担うために、豊かな教養・国際的視野を持ち、異文化を理解する能力	7	ICTを用い情報を利活用し保健医療福祉の発展や課題を解決する能力
		8	教養を身に付けた市民として行動できる能力
		9	看護職者として国際的視野を持ち活動できる基礎的能力
4	看護学領域における課題を明確化し、科学的な方法を用いて、問題解決の道筋を構想する能力	10	探求心を持って研究的に看護に取り組むことができる能力
5	専門職者として自律的に研鑽し続け、専門性を発展させる能力	11	自らの健康維持増進に留意して能動的に学び続けることができる能力

図1 本学部におけるディプロマポリシー(DP)、コンピテンシー(C)

資質・能力を身に付けた者に対し、学士（看護学）の学位を授与する。

## 2. 学年修了レベルコンピテンシー（44項目）

本学部では、11項目のコンピテンシーに対して、各学年での達成レベルを設定し、どの程度修得できたかを学生自身で評価できるよう示している。評価は、「基礎となる知識を習得できる（Very Basic）」、「知識を応用して学習できる（Basic）」、「模擬的な場面で応用できる（Applied）」、「実践の場で応用できる（Advance）」の5段階評価とし、学年によって段階的・継続的に評価可能な指標を設定している。

## III. 調査方法

### 1. 対象者

2025年度順天堂大学保健看護学部に在学する全学生587名

### 2. データ収集方法

Googleフォームを用いた無記名によるWebアンケート調査を実施した。アンケートフォームには、研究参加の任意性と個人情報の取り扱い等について記載した。また、アンケート結果は、本学部のカリキュラム運営に使用をすることも併せて記載した。データ収集期間は、2025年6月4日～6月13日であった。

### 3. 調査項目

#### 1) 基本属性

学年、入試区分

#### 2) ディプロマ・ポリシー（DP）、コンピテンシー（C）、

学年修了レベルコンピテンシーの認識

「知っている」から「知らない」までの5件法で

回答を求めた。

#### 3) 履修要項、シラバスの活用・理解度

履修要項については「じっくり読んでいる」から

「読まない」、シラバスについては「いつも見ている」から「見ない」までの5件法で回答を求めた。

#### 4) ディプロマ・ポリシー（DP）、コンピテンシー（C）、修了レベルコンピテンシーの大学側からの情報提供

情報提供については「十分である」から「十分でない」、教員からの説明については、「常に受けている」から「受けていない」までの5件法で回答を求めた。

## 4. 分析方法

各項目の記述合計を算出した後、各学年、入試区分とディプロマ・ポリシー（DP）、コンピテンシー（C）、学年修了レベルコンピテンシーの認識、履修要項、シラバスの活用・認知度との関連をみるため、 $\chi^2$ 検定を行った。有意水準は5%とし、統計解析にはSPSS ver.27を使用した。

## IV. 結果

全学生587名中、352名（回答率60.1%）から回答が得られ、すべてを有効回答とした。

### 1. 基本属性（表1）

1年生120名（34.1%）、2年生106名（30.0%）、

表1 基本属性（n=352）

	項目	度数	%
学年	1年生	120	34.1
	2年生	106	30.1
	3年生	69	19.6
	4年生	57	16.2
入試区分	一般選抜	149	42.3
	総合選抜Ⅰ・Ⅱ	58	16.5
	学校推薦型選抜（指定校）	38	10.8
	学校推薦型選抜（公募）	82	23.3
	共通テスト利用選抜	11	3.1
	共通テスト・一般併用	13	3.7
	帰国生選抜	1	0.3

3年生 69名 (19.5%)、4年生 57名 (16.4%) であった。入試区分は、一般選抜 149名 (42.3%)、総合選抜 I・II 58名 (16.5%)、学校推薦型選抜 (指定校) 38名 (10.8%)、学校推薦型選抜 (公募) 82名 (23.3%) 共通テスト利用選抜 11名 (3.1%)、共通テスト・一般併用 13名 (3.7%)、帰国選抜 1名 (0.3%) であった。

2. ディプロマ・ポリシー (DP)、コンピテンシー (C)、  
学年修了レベルコンピテンシーの認識 (表2、3、  
4、5、6)

本学部のディプロマ・ポリシー (DP) について「まあまあ知っている」135名 (38.4%) が最も多く、次いで「どちらともいえない」65名 (18.5%)、「あまり知らない」64名 (18.2%) であった。「知っている」と回答したものは 57名 (16.2%) であった。

本学部のコンピテンシー (C) について「まあまあ知っている」99名 (28.1%) が最も多く、「どちらともいえない」99名 (28.1%)、「あまり知らない」81名 (23.0%) であった。「知っている」と回答したも

のは 34名 (9.7%) であった。

学年修了レベルコンピテンシーについて「あまり知らない」129名 (36.6%) が最も多く、「どちらともいえない」103名 (29.3%)、「知らない」56名 (15.9%) であった。「知っている」と回答したものは 17名 (4.8%) であった。また、次学年に進級する際、学年修了レベルコンピテンシーを確認し、自己の達成度を確認しているかについて「ほとんど確認していない」129名 (36.6%) と最も多く、「どちらともいえない」90名 (25.6%)、「確認していない」77名 (21.9%) であった。「確認している」と回答したものは 16名 (4.5%) であった。

各学年とディプロマポリシー (DP) の認知度との関連については、「知っている」「まあまあ知っている」で3年生が 49.3%と5割未満であったが、その他の学年では5割以上が肯定的な回答であった。その中でも、4年生が 70.2%と各学年と比較して肯定的な回答が最も多かった。逆に「あまり知らない」「知らない」で1年生が 35.9%と各学年と比較して否定

表2 本学部のディプロマポリシーについて知っていますか (n=352)

	度数	%
知っている	57	16.2
まあまあ知っている	135	38.4
どちらともいえない	65	18.5
あまり知らない	64	18.2
知らない	31	8.8

表3 本学部のコンピテンシーについて知っていますか (n=352)

	度数	%
知っている	34	9.7
まあまあ知っている	99	28.1
どちらともいえない	90	25.6
あまり知らない	81	23.0
知らない	48	13.6

表4 各学年で設定されている学年修了レベルコンピテンシーについて知っていますか (n=352)

	度数	%
知っている	17	4.8
まあまあ知っている	47	13.4
どちらともいえない	103	29.3
あまり知らない	129	36.6
知らない	56	15.9

表5 次学年に進級する際、学年修了レベルコンピテンシーを確認し、自分がどの程度達成できているかを確認しているか (n=352)

	度数	%
確認している	16	4.5
時々確認している	40	11.4
どちらともいえない	90	25.6
ほとんど確認していない	129	36.6
確認していない	77	21.9

的な回答が最も多かった。各学年とコンピテンシー (C) の認知度との関連については、「知っている」「まあまあ知っている」で4年生が68.4%と各学年と比較して肯定的な回答が最も多く、その他の学年は5割未満であった。また、「あまり知らない」「知らない」で1年生が50.0%と各学年と比較して否定的な回答が最も多かった。2、3年生もディプロマ・ポリシー (DP) の認知度と比較すると、3割が否定的な回答であった。各学年と学年修了レベルコンピテンシーの認知度との関連については、「知っている」「まあまあ知っている」で4年生が35.4%と各学年と比較して肯定的な回答が最も多かったが、その他の学年は2割未満であり、ディプロマ・ポリシー (DP) やコンピテンシー (C) の認知度と比較すると割合が低かった。また、「あまり知らない」「知らない」で全ての学年において4割以上が否定的な回答であり、その中でも1年生が64.4%と最も多かった。

各学年とディプロマ・ポリシー (DP)、コンピテンシー (C)、学年修了レベルコンピテンシーの認知度との関連については、すべての比較群間に統計的に有

意な差が認められた。

入試区分とディプロマ・ポリシー (DP) の認知度との関連については、「知っている」「まあまあ知っている」で共通テスト利用選抜が63.7%と最も多く、次いで、学校推薦型選抜 (指定校) が63.2%と肯定的な回答が多かった。入試区分とコンピテンシー (C) の認知度との関連については、「知っている」「まあまあ知っている」で学校推薦型選抜 (指定校) が47.4%と最も多く、次いで、共通テスト・一般併用が46.2%と肯定的な回答が多かった。入試区分と修了レベルコンピテンシーの認知度との関連については、入試区分に関わらず「あまり知らない」「知らない」で3~5割と否定的な回答が多かった。入試形態とディプロマ・ポリシー (DP)、コンピテンシー (C)、修了レベルコンピテンシーの認知度との関連については、すべての比較群間に統計的に有意な差は認められなかった。

表6 各学年とディプロマポリシー、コンピテンシー、学年修了レベルコンピテンシーの認知度との関連 (n=352)

	知っている		まあまあ知っている		どちらともいえない		あまり知らない		知らない		p
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
<b>ディプロマポリシーの認知度</b>											
1年生	18	15.0	47	39.2	12	10.0	29	24.2	14	11.7	0.006**
2年生	20	18.9	33	31.1	27	25.5	18	17.0	8	7.5	
3年生	10	14.5	24	34.8	21	30.4	10	14.5	4	5.8	
4年生	9	15.8	31	54.4	5	8.8	7	12.3	5	8.8	
<b>コンピテンシーの認知度</b>											
1年生	7	5.8	22	18.3	31	25.8	35	29.2	25	20.8	<0.001**
2年生	16	15.1	27	25.5	30	28.3	22	20.8	11	10.4	
3年生	3	4.3	19	27.5	24	34.8	15	21.7	8	11.6	
4年生	8	14.0	31	54.4	5	8.8	9	15.8	4	7.0	
<b>学年修了レベルコンピテンシーの認知度</b>											
1年生	3	2.5	12	10.0	28	23.3	46	38.3	31	25.8	<0.001**
2年生	8	7.5	10	9.4	40	37.7	36	34.0	12	11.3	
3年生	1	1.4	10	14.5	23	33.3	25	36.2	10	14.5	
4年生	5	8.8	15	26.3	12	21.1	22	38.6	3	5.3	

χ<sup>2</sup>検定

3. 履修要項、シラバスの活用・認知度 (表8、表9、表10)

履修要項の活用について「時々読んでいる」163名(46.3%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」113名(32.1%)、「じっくり読んでいる」44名(12.5%)であった。

シラバスについて「時々見ている」227名(64.5%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」73名(20.7%)、「いつも見ている」26名(7.4%)、「ほとんど見ていない」26名(7.4%)であった。シラバスを「見てない」ものは0名(0.0%)であった。

各科目のシラバスに記載されている〈到達目標〉と〈コンピテンシー(C)〉との関連についての認知度は「まあまあ理解できている」132名(37.5%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」120名(34.1%)、

「あまり理解できていない」56名(15.9%)であった。「理解できている」と回答したものは25名(7.1%)であった。

各学年と履修要項の活用については、「読んでいる」「じっくり読んでいる」で、どの学年も5割以上が肯定的な回答をしており、学年が上がるごとに肯定的な回答の割合が多くなり、4年生は70.1%と肯定的な回答が最も多かった。また、履修要綱を「読まない」と回答したものは、1年生以外は0%であった。

各学年とシラバスの活用については、「いつも見ている」「時々見ている」で、どの学年も6割以上が肯定的な回答をしており、3年生は88.4%と肯定的な回答が最も多かった。また、シラバスを「見ていない」と回答したものは、全学年0%であった。各学年とシラバスに記載されている〈到達目標〉と〈コンピテン

表7 入試区分とディプロマポリシー、コンピテンシー、学年修了レベルコンピテンシーの認知度との関連(n=352)

	知っている		まあまあ知っている		どちらともいえない		あまり知らない		知らない		p
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
<b>ディプロマポリシーの認知度</b>											
一般選抜	17	11.4	57	38.3	26	17.4	35	23.5	14	9.4	0.525
学校推薦型選抜(公募)	11	13.4	34	41.5	16	19.5	14	17.1	7	8.5	
学校推薦型選抜(指定校)	9	23.7	15	39.5	6	15.8	4	10.5	4	10.5	
帰国生選抜	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	
共通テスト・一般併用	2	15.4	4	30.8	4	30.8	3	23.1	0	0.0	
共通テスト利用選抜	3	27.3	4	36.4	1	9.1	1	9.1	2	18.2	
総合選抜Ⅰ・Ⅱ	15	25.9	21	36.2	11	19.0	7	12.1	4	6.9	
<b>コンピテンシーの認知度</b>											
一般選抜	9	6.0	37	24.8	41	27.5	41	27.5	21	14.1	0.765
学校推薦型選抜(公募)	10	12.2	22	26.8	19	23.2	21	25.6	10	12.2	
学校推薦型選抜(指定校)	5	13.2	13	34.2	9	23.7	6	15.8	5	13.2	
帰国生選抜	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	
共通テスト・一般併用	2	15.4	4	30.8	3	23.1	4	30.8	0	0.0	
共通テスト利用選抜	1	9.1	4	36.4	2	18.2	1	9.1	3	27.3	
総合選抜Ⅰ・Ⅱ	7	12.1	19	32.8	15	25.9	8	13.8	9	15.5	
<b>学年修了レベルコンピテンシーの認知度</b>											
一般選抜	5	3.4	18	12.1	41	27.5	61	40.9	24	16.1	0.923
学校推薦型選抜(公募)	5	6.1	10	12.2	23	28.0	30	36.6	14	17.1	
学校推薦型選抜(指定校)	1	2.6	7	18.4	13	34.2	12	31.6	5	13.2	
帰国生選抜	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	
共通テスト・一般併用	0	0.0	2	15.4	6	46.2	5	38.5	0	0.0	
共通テスト利用選抜	1	9.1	2	18.2	4	36.4	2	18.2	2	18.2	
総合選抜Ⅰ・Ⅱ	5	8.6	8	13.8	15	25.9	19	32.8	11	19.0	

χ<sup>2</sup>検定

シー)との関連の理解については、「理解できている」「まあまあ理解できている」で4年生が64.9%と各学年と比較して肯定的な回答が最も多かった。逆に「あまり理解できていない」「理解できていない」で1年生が30.0%と各学年と比較して否定的な回答が最も

多かった。

各学年と履修要項、シラバスの活用・認知度の関連については、“シラバスを見たことがあるか”、“各項目のシラバスに記載されている〈到達目標〉と〈コンピテンシー〉との関連の理解”の2つにおいて統計的に有意な差が認められた。

表8 履修要項を読んだことがありますか (n=352)

	度数	%
じっくりと読んでいる	44	12.5
時々読んでいる	163	46.3
どちらともいえない	113	32.1
ほとんど読まない	31	8.8
読まない	1	0.3

表9 シラバスを見たことがありますか (n=352)

	度数	%
いつも見ている	26	7.4
時々見ている	227	64.5
どちらともいえない	73	20.7
ほとんど見ていない	26	7.4
見ていない	0	0.0

表10 各科目のシラバスに記載されている〈到達目標〉と〈コンピテンシー〉との関連について、理解できていますか (n=352)

	度数	%
理解できている	25	7.1
まあまあ理解できている	132	37.5
どちらともいえない	120	34.1
あまり理解できていない	56	15.9
理解できていない	19	5.4

表11 各学年と履修要項、シラバスの活用・理解度との関連 (n = 352)

履修要項を読んでいるか											
	じっくりと読んでいる		時々読んでいる		どちらともいえない		ほとんど読まない		読まない		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	p
1年生	15	12.5	46	38.3	47	39.2	11	9.2	1	0.8	0.182
2年生	14	13.2	47	44.3	37	34.9	8	7.5	0	0.0	
3年生	7	10.1	38	55.1	20	29.0	4	5.8	0	0.0	
4年生	8	14.0	32	56.1	9	15.8	8	14.0	0	0.0	
シラバスを見たことがあるか											
	いつも見ている		時々見ている		どちらともいえない		ほとんど見ていない		見ていない		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	p
1年生	6	5.0	71	59.2	31	25.8	12	10.0	0	0.0	0.009
2年生	10	9.4	63	59.4	27	25.5	6	5.7	0	0.0	
3年生	9	13.0	52	75.4	6	8.7	2	2.9	0	0.0	
4年生	1	1.8	41	71.9	9	15.8	6	10.5	0	0.0	
各科目のシラバスに記載されている〈到達目標〉と〈コンピテンシー〉との関連の理解											
	理解できている		まあまあ理解できている		どちらともいえない		あまり理解できていない		理解できていない		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	p
1年生	3	2.5	35	29.2	46	38.3	25	20.8	11	9.2	0.006
2年生	11	10.4	39	36.8	39	36.8	13	12.3	4	3.8	
3年生	4	5.8	28	40.6	25	36.2	11	15.9	1	1.4	
4年生	7	12.3	30	52.6	10	17.5	7	12.3	3	5.3	

χ<sup>2</sup>検定

4. ディプロマ・ポリシー (DP)、コンピテンシー (C)、  
学年修了レベルコンピテンシーの大学側からの情報提供 (表12、13)

大学からのディプロマ・ポリシー (DP)、コンピテンシー (C)、学年修了レベルコンピテンシーの情報提供について「どちらともいえない」154名(43.8%)が最も多く、次いで「まあまあ十分である」120名(34.1%)、「あまり十分ではない」41名(11.6%)であった。「十分である」と回答したものは34名(9.7%)であった。

各科目のシラバスに記載されている〈到達目標〉と〈コンピテンシー〉との関連について、教員から説明を受けているかについて「時々うけている」162名(46.0%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」95名(27.0%)、「あまり受けていない」54名(15.3%)であった。「常に受けている」と回答したものは32名(9.1%)であった。

表12 ディプロマポリシー・コンピテンシー・学年修了レベルコンピテンシーについての大学からの情報提供は十分ですか (n=352)

	度数	%
十分である	34	9.7
まあまあ十分である	120	34.1
どちらともいえない	154	43.8
あまり十分ではない	41	11.6
十分でない	3	0.9

表13 各科目のシラバスに記載されている〈到達目標〉と〈コンピテンシー〉との関連について、教員から説明を受けているか (n=352)

	度数	%
常に受けている	32	9.1
時々受けている	162	46.0
どちらともいえない	95	27.0
あまり受けていない	54	15.3
受けていない	9	2.6

V. 考 察

本学部の学生のディプロマ・ポリシー (DP) およびコンピテンシー (C)、学年修了レベルコンピテンシーといった学士力に関する認識と大学側からの情報提供について学生の状況を調査し、学生が自らの学ぶ教育課程の目標や構造を十分に理解したうえで、学修活動に主体的に向き合うための大学側の課題について、以下に考察する。

1. 本学部の学生のディプロマ・ポリシー (DP) およびコンピテンシー (C)、学年修了レベルコンピテンシーといった学士力に関する認識

本学部の学生は、ディプロマ・ポリシー (DP) については、全体では、「知っている」「まあまあ知っている」と肯定的な回答をしたものが5割を超え、各学年でみても3年生以外は肯定的な回答が5割を超えており、4年生では7割を超えていた。他大学の調査と比較すると、医療系のA大学では、ディプロマ・ポリシー (DP) について「知っている」「よく知っている」と肯定的な回答をしたものは全体の1割未満、学年が上がるごとに肯定的回答の割合が下がっており<sup>5)</sup>、本学部の学生は、ディプロマ・ポリシー (DP) についての認識は高いことが伺えた。コンピテンシー (C) については、「まあまあ知っている」が3割弱であったが、次いで「どちらともいえない」「あまり知らない」で5割を占めていた。また、学年修了レベルコンピテンシーでは、「どちらともいえない」「あまり知らない」が5割を超え、次いで「知らない」と回答したものが多く、ディプロマ・ポリシー (DP) の認知度と比較すると否定的な回答をしたものが多い割合であった。

入試区分とディプロマ・ポリシー (DP) およびコンピテンシー (C)、学年修了レベルコンピテンシーといった学士力に関する認識については、入試区分によって認識に大きな差は見られなかった。全国規模で行われた学生調査結果によると、アドミッション・ポ

リシー（AP）の認知度と入試区分については、総合型選抜、学校型推薦型選抜及び公募推薦選抜で入学した学生の方が、一般選抜で入学した学生よりも認知度が高い結果が示されていた<sup>6)</sup>。アドミッション・ポリシー（AP）は、大学が求める学生像が示されているため、受験生にとっては志望校を決定する判断材料であることや志望理由や面接の際に必要なため、入試区分と認知度について統計的に有意な差が認められていた。本学部においても、今後はアドミッション・ポリシー（AP）についての認知度について調査していく必要がある。

## 2. 本学部におけるディプロマ・ポリシー（DP）およびコンピテンシー（C）、学年修了レベルコンピテンシーといった学士力に関する情報発信の課題

本学部の学生は、履修要項ならびにシラバスの活用について、多くの学生が肯定的な回答をしていた。特に、シラバスについては「見ていない」と回答した学生は0%であり、「時々見ている」ものが6割以上を占めていた。また、各学年の割合をみても、シラバスの活用について、どの学年も6割以上が肯定的な回答をしており、学年が上がるごとに履修要項・シラバスを活用していることが明らかとなった。また、各科目のシラバスに記載されている〈到達目標〉と〈コンピテンシー（C）〉との関連について、全体では「まあまあ理解できている」が3割を超え、4年生になると「理解できている」「まあまあ理解できている」と肯定的回答をしたものが6割を超えていた。その一方で、1年生は「あまり理解できていない」「理解できていない」と否定的回答をしたものが3割と学年によって理解度に差があることが明らかとなった。本学のシラバスは、各科目においてディプロマ・ポリシー、コンピテンシーの関連、到達目標におけるディプロマ・ポリシーとの関連について明記されており、シラバスを見る回数が増えることで、各科目のシラバスに記載さ

れている〈到達目標〉と〈コンピテンシー（C）〉との関連が学生の意識づけに繋がっていることが示唆された。しかし、大学側からの情報発信について、「どちらともいえない」と回答したものが4割と最も多く、教員から〈到達目標〉と〈コンピテンシー（C）〉との関連について説明を受けているかについて、「常に受けている」と回答したものは1割未満であり、大学側からの情報発信に課題があることが示唆された。教員を対象としたディプロマ・ポリシー（DP）に関する意識調査によると、教員はDPの理解はあったとしても、教員自らの授業実践でその意識の持ちようには乖離があるとされていた<sup>7)</sup>。今回の調査は、学生を対象としたため、本学部の教員が授業実践においてどの程度、ディプロマ・ポリシー（DP）や学士力について理解しているか、〈到達目標〉と〈コンピテンシー（C）〉との関連を踏まえて各科目の到達目標を設定しているのかについては不明である。しかし、今後は、より学生が自らの学ぶ教育課程の目標や構造を十分に理解できるよう、教員側もカリキュラムマップ・コンピテンシー（C）達成レベル表を活用するなど、各科目における達成すべきコンピテンシー（C）、学年修了レベルコンピテンシーを意識した授業への取り込み等の課題が見えてきた。教員への意識調査やカリキュラム構造の理解促進、さらにはカリキュラム・マネジメントの導入も必要ではないだろうか。カリキュラム・マネジメントは、「2017年告示の学習指導要領における資質・能力育成型教育課程を実現するため、全ての教職員参加による教育課程の編成・実施・診断・評価・改善を通して学校の特徴を創り上げていく営みである」と示されている<sup>8)</sup>。しかしながら、カリキュラムは組織的に体系化されているように見えながら、現場の教員の合意や協働性に基づいて十分に検討されているか疑念されるとの指摘もある<sup>9)</sup>。本学部においても同様の課題は否めない。また、進級・ゼミ選択等のタイミングで継続的に学部学生に学部学修のイメージ

を定着させることも効果的であるとされており<sup>10)</sup>、情報発信のタイミングについても検討することが課題である。

## VI. おわりに

今回の学生への調査は、1学部、単年度の調査であり、未回答が4割であったため一般化には限界があるものの、本学部学生のディプロマ・ポリシー (DP) およびコンピテンシー (C)、学年修了レベルコンピテンシーといった学士力に関する認識について把握することができた。また、履修要項・シラバス活用と大学側からのディプロマ・ポリシー (DP) や学士力に関する情報提供について学生の状況を把握したことで、学生が自らの学ぶ教育課程の目標や構造を十分に理解したうえで、学修活動に主体的に向き合うための大学側の課題が見えてきた。

また、本調査では、各学年におけるディプロマ・ポリシー (DP)、コンピテンシー (C)、および学年修了レベルコンピテンシーの認知度との関連に差がみられたが、その要因については十分に明確化できなかった。今後は、学年進行に伴う認知の変化やその背景要因を詳細に分析し、教育課程全体における学修成果の可視化に資する検討を進めていくとともに、学年に応じた情報提供の在り方を考えることや、教員自らがディプロマ・ポリシー (DP)、コンピテンシー (C)、学年修了レベルコンピテンシーのつながりを意識した授業への取り込み等が課題である。

## 引用文献

- 1) 文部科学省 (2016.3.15) : 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー) (2025.10.10 閲覧)  
<[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/gijiroku/icsFiles/afiedfile/2016/03/15/1368304\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/gijiroku/icsFiles/afiedfile/2016/03/15/1368304_01.pdf)>
- 2) 文部科学省 (n.d.) : 「学校教育法施行規則の改正に関わる通知 (抜粋)」(2025.10.10 閲覧)  
<[https://www.mext.go.jp/content/1419954\\_10.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1419954_10.pdf)>
- 3) 順天堂大学 (2024.4) : 「3つのポリシー作成の基本方針」(2025.10.10 閲覧)  
<<https://www.juntendo.ac.jp/assets/3policy.pdf>>
- 4) 順天堂大学保健看護学部 (n.d.) : 「教育・研究の目的と方針 (3つのポリシー)」(2025.10.10 閲覧)  
<<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/about/policy/>>
- 5) 内田竜司, 児玉淳, 丸田道人, 他 : 福岡歯科大学における学生のディプロマポリシー・学士力の認知度と学修成果可視化への期待の程度について, 日歯教誌, 32(3), 155-165, 2016.
- 6) 大関智史, 藤木清, 望月雅光, 他 : 全国規模の学生調査結果からのアドミッション・ポリシーの認知度に関する考察—アドミッション・ポリシーの認知度に関する考察—, 大学入試研究ジャーナル, 35, 277-283, 2025.
- 7) 河井正隆, 市川哲 : 本学教員のディプロマ・ポリシーに関する意識—アンケート調査に基づく報告—, 明治国際医療大学誌, 24, 1-11, 2020.
- 8) 天笠茂 (文部科学省) : 新学習指導要領の理念とカリキュラム・マネジメント (2025.10.23 閲覧)  
<[https://www.nier.go.jp/06\\_jigyousymposium/sympo\\_h30/pdf/h30\\_01-amagasa.pdf](https://www.nier.go.jp/06_jigyousymposium/sympo_h30/pdf/h30_01-amagasa.pdf)>
- 9) 杉谷祐美子 : カリキュラムマネジメント論からみた学士課程教育の近年の動向と課題に関する考察, 名古屋高等教育研究, 22, 161-183, 2022.
- 10) 林龍徳 : カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーへの理解を深める履修サポートツールの開発—スポーツ健康科学部の事例をもとに—, 立命館高等教育研究, 15, 177-193, 2015.